

国語部会 研究の構想（案）

平成 24 年度～

I 研 究 主 題

言語の主体的な使い手として言葉を大切にし、社会生活に生きて働く言語能力を身に付けた生徒を育てる指導はどうあればよいか。

II 主題設定の趣旨

平成24年、学習指導要領が全面実施となった。平成21年度から23年度までの移行期間では、「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」「知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」を意識してきた。それらを生徒に身に付けさせることを言語の教育の立場から推し進めるため、研究主題を「基礎的・基本的な知識及び技能を活用して、主体的に課題を解決していく生徒を育てる指導はどうあればよいか。」とし、研究を進めてきた。また、学習指導要領の各領域の「内容」に「言語活動例」が示されたことを受け、副題に「言語活動の工夫と充実を通して」を掲げ、言語活動の工夫と充実に焦点を当てた。各郡市の取組を通して、ねらいを明確にした言語活動は、社会生活に生きて働く言語能力を生徒に身に付けさせるために有効であり、単元の指導目標を達成するためには、指導事項を身に付けさせるのにふさわしい言語活動を選定し、単元を貫いて適切に位置付けることが必要であると確認された。

一方で、日常の生徒の言語生活では、助詞等を使わずに単語で話したり、限られた言葉だけで会話を済ませていたりする姿がみられる。また、筋道を立てて自分の考えを表現する力にも課題がみられる。国語科の目標を実現するためには、読書の量や質を向上させて語彙を増やすことや、多様な場面や状況を想定した学習を積み重ねていくことによって、実体験と言葉を結び付け、言葉の意味や適切な使い方を実感を伴って理解できるようにすることが大切である。また、それらを通して、言語文化の担い手である生徒たちに、言葉を大切にする態度や言語に対する豊かな感覚を育んでいくことが望まれる。

そこで、学習指導要領に基づくこれからの取組を更に確実なものとするため、次の視点で研究を進める。

- (1) 教科経営に関する研究
- (2) 教科内容に関する研究
- (3) 指導と評価に関する研究

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

国語科の目標を確実に実現することを目指して、言語の主体的な使い手として言葉を大切にし、社会生活に生きて働く言語能力を身に付けた生徒を育てるための指導の在り方を研究する。

2 研究内容

- (1) 教科経営に関する研究
 - ① 学習指導要領の趣旨を生かした授業の改善
 - ② 社会生活に必要な国語の能力の育成
 - ③ 国語科としての役割の明確化
- (2) 教科内容に関する研究
 - ① 付けたい力と結び付く言語活動の工夫と充実
 - ② 基礎的・基本的な知識及び技能の活用
 - ③ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導の重視
- (3) 指導と評価に関する研究
 - ① 社会生活に生きて働く言語能力を身に付けさせるための指導過程の工夫
 - ② 指導と評価の在り方の工夫

国語部会 研究の平成 26 年度研究計画（案）

I 研究 主 題

言語の主体的な使い手として言葉を大切に、社会生活に生きて働く言語能力を身に付けた生徒を育てる指導はどうあればよいか。

— 他者と交流して思考を深める言語活動 —

II 主題について

平成25年度は、平成24年度までの成果や課題を踏まえて、「他者と交流して思考を深める言語活動」についての研究を推進してきた。各校では、付けたい力を明確にした言語活動を工夫するとともに、思考を深めるという視点から研究主題の解明に向けた授業実践が行われた。課題解決を目指した全体での話し合い、小グループでの意見交換等の活動を取り入れることにより、主体的に学び合おうとする意欲の高まり、新たな気づきや自らの考えの見直しの促進等の効果が確認された。このように、「他者と交流する」言語活動を意図的に仕組み、その中で思考を促すという点では成果が見られたものの、その言語活動に取り組む過程で一人一人の思考をどう広めたり深めたりしていくかについては、課題が残されている。

平成25年4月に行われた全国学力・学習状況調査では、全体的な課題として、具体的な言語活動の中で基礎的・基本的な知識及び技能を適切に使うこと、表現した内容を客観的に見直してよりよくすることが挙げられている。さらに、説明的な文章について、表現の仕方や文章の特徴に注意して読むことにも依然として課題が残る。また、同時期に行われた中教研学力調査でも、普段の言語生活では使用頻度の少ない語句の理解力、表現に含まれる意味やその意図を読み取る力、文章を整えて書く力等に課題がみられた。

このような平成25年度の授業実践や調査結果にみられる成果と課題を踏まえ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域における授業実践を通し、生徒の姿から実践的に研究を積み重ねていきたい。特に、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるだけでなく、それらを活用するような実際の生活場面を想定した課題の設定、効果的な指導過程等を工夫し、より適切な言語活動に取り組ませていくことが求められる。こうした展望から、現学習指導要領実施3年目の今年度も引き続き、「他者と交流して思考を深める言語活動」に重点をおき、研究を進めていくこととする。

III 研究内容とその視点

1 教科経営に関する研究

(1) 学習指導要領の趣旨を生かした授業の改善

- ① 社会生活に必要とされる多様な言語活動を領域別に整理し、指導事項に基づいてバランスよく指導計画に位置付ける。
- ② 指導事項と教材の特性、生徒の実態を踏まえて、付けたい力を設定し、それにふさわしい単元を貫く言語活動を取り入れた授業を構想する。
- ③ 生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れる。
- ④ 各授業での指導事項と言語活動に対応した具体的な評価規準を作成し、指導計画の中に位置付ける。

(2) 社会生活に必要な国語の能力の育成

- ① 小学校での指導内容を踏まえるとともに、学年間における指導内容の系統的な関連を明確にし、各学年で身に付けるべき能力の育成を目指し、生徒の実態に応じて重点的な指導が行われるようにする。
- ② 教材については、実生活と関わりのある話題や題材を精選し、生徒の興味・関心を喚起するような多様な指導の在り方について研究する。

(3) 国語科としての役割の明確化

- ① 各教科等で必要とされる言語活動を年間を通して把握し、そのモデル例を作成して提案したり、それらを相互に有機的に結び付けたりするなどの役割の在り方を研究する。
- ② 読書の役割の重要性を踏まえ、学校図書館の整備・充実に努めるとともに、各教科等で活用できる図書資料等を紹介し、それぞれの授業の中での活用を図る。

2 教科内容に関する研究

(1) 単元を貫く言語活動の工夫と充実

- ① 「話すこと・聞くこと」を効果的に指導するための言語活動の工夫と充実
ア 話し手がある程度まとまった話をし、それを聞いて質疑応答や意見交換をする言語活動の工夫（報告・紹介、質問・助言、説明・発表、意見、スピーチ・表現の参考等）
イ 互いの思いや考え等を深めたり広げたりしていく言語活動の在り方（対話・討論、説

得等)

② 「書くこと」の言語活動の工夫と充実

- ア 物事について感じたことを書く言語活動の在り方(鑑賞、創作、批評等)
- イ 物事を整理し、考えや意見を書く言語活動の在り方(説明・記録、意見、編集等)
- ウ 事実や思いなどを伝える文章を書く言語活動の在り方(案内・報告、手紙等)

③ 「読むこと」の言語活動の工夫と充実

- ア 主として文学的な文章を読むことについての言語活動の在り方(音読・朗読、文学作品の感想の交流、文学作品の批評等)
- イ 主として説明的な文章を読むことについての言語活動の在り方(図表等の活用、説明や批評の考察、情報比較等)
- ウ 目的をもって読書を進めることについての言語活動の在り方(課題読書、引用・紹介、情報比較、読書生活の振り返り等)

(2) 基礎的・基本的な知識及び技能の活用

- ① 自ら課題を設定し、基礎的・基本的な知識及び技能を活用し、他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決していく学習の在り方
- ② 基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、自らの課題を解決していく過程を明確にした学習の在り方
 - ア 「話すこと・聞くこと」の指導事項との関連性(話題設定や取材、話すこと、聞くこと、話し合うこと)
 - イ 「書くこと」の指導事項との関連性(課題設定や取材、構成、記述、推敲、交流)
 - ウ 「読むこと」の指導事項との関連性(語句の意味の理解、文章の解釈、自分の考えの形成、読書と情報活用)

(3) 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導の重視

- ① 言語の歴史や作品の時代的・文化的背景と関連付けながら古典に親しむ学習の在り方
- ② 国語の特質や言語の多様な働きを理解し、慣用句や敬語等、社会生活で実際に役立てることを目指した語彙や文法等の学習の在り方
- ③ 社会生活で確実に使用できることや読書生活の充実に役立てることを目指した漢字学習の在り方
- ④ 文字文化に親しみ、社会生活や学習活動に役立てることを目指した書写の学習の在り方

3 指導と評価に関する研究

(1) 社会生活に生きて働く言語能力を身に付けさせるための指導過程の工夫

- ① 生徒が自ら課題を設定し、解決に向けて取り組む指導の工夫
- ② ねらいに迫るための個、ペア、グループ、一斉等の学習形態の工夫や少人数指導の在り方
- ③ 生徒の思考の流れを大切にしたい発問、板書の工夫
- ④ 生徒が学習内容を理解し、考えを深めていくことができるノート指導
- ⑤ コンピュータや情報通信ネットワーク等の情報手段を活用する方法
- ⑥ 体験や学び合いを通して学力向上と人間関係づくりを一体的に進める指導

(2) 指導と評価の在り方の工夫

- ① 付けたい力(育成を目指す言語能力)の明確化と具体的な生徒の姿を想定した評価規準の作成
- ② 指導に生かす評価、評価を生かした指導の工夫
- ③ 「努力を要する状況」と予想される生徒に対する手立てや「十分満足できる状況」の生徒を伸ばす指導の工夫
- ④ 生徒一人一人が自らの学習成果を確認したり、表現のよさや理解の確かさを認め合ったりする自己評価や相互評価の在り方
- ⑤ 授業中の活動の様子、発言、文章、ノート、作品、さらに定期考査や小テスト、学力調査等におけるS-P表等を利用した分析結果から生徒の学習の実現状況を的確に評価し、個に応じた手立てを充実させていく方法

IV 研究方法

- 1 県、郡市や学校単位で指導案や指導資料等のデータベースを作成し、収集、整理、提供の円滑化を図る。
- 2 郡市や学校単位で、指導計画、授業や実践事例等について協議、情報交換し研究を進める。
- 3 学力調査を活用し、研究の推進及び評価結果を生かした指導の改善に努める。
- 4 実践的研究に取り組み、評価することで、指導内容と指導方法の改善を図る。

